

兵庫県教育委員会丹波教育事務所 教育支援チーム

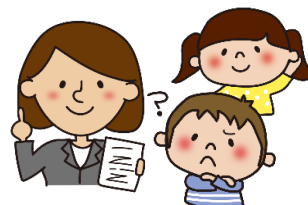
TNBだより



令和4年3月号

今年度もあとわずかになりました。コロナ禍は3年目に入り、子どもたちの学びと心身の健康を守るためのご苦労が続いていると思います。しかし、本年度も、どの学校でも子どもたちの歓声や笑顔があり、健やかに伸びゆく姿がありました。また、知恵を出し合い困難を乗り越える経験を子どもたちがする好機だととらえて、自治的な活動に取り組みまれておられる話を伺い、心強く感じました。教職員の皆様のご努力に心から敬意を表します。

今月号は、3ページで発行いたします。1・2ページでは、2月号に続き、定年退職される校長先生の教育に携わってきた思いをご紹介します。3ページには、学校訪問で話題になったことの中から、年度の始業に関わる話をお伝えします。



人を育てることの素晴らしさを改めて

丹波市立春日部小学校長 上月 明生

38年間(旧氷上郡～丹波市36年、旧篠山市2年)、丹波の小学校に務めさせていただきました。管外からの通勤でしたが、人生の半分以上を丹波で過ごし、子どもたちや様々な方々との出会いを通して成長させてもらいましたので、丹波は私の故郷であると言ってもいいのかもしれない。

教諭時代は、コンピュータを活用した情報教育、通級指導等の障がいのある児童に関わる教育、震災・学校支援チーム員として防災教育等、自分なりのテーマを持って取り組みました。校長になってからは、小学校隣接地での認定こども園建設と幼小経営、学校運営協議会の立ち上げ、新型コロナ対応など、新たな課題に対応しなければなりません。反省することばかりで苦労もありましたが、保護者・地域の方・先生方・関係機関の皆様のご支援により、やりがいや楽しさを感じながら、乗り越えられたことに心より感謝申し上げます。

話は変わりますが、私が最後に学級担任をさせてもらった男の子(当時1年生)と13年ぶりに再会する機会がありました。彼は、救急救命士として病院に勤務していました。彼の1学年上(当時2年生)の男の子も、直接の担任ではありませんでしたが、同病院に看護師として勤務していました。私事ですが、たまたま、その病院に入院することがあり、この2人が私の看護等の世話をしてくれました。自分が教師として小学校時代に関わった子どもたちが、立派に社会に出て人の命を救う仕事に就いて活躍していることがとてもうれしかったです。

退職を迎える年になって、教育者の一人として、自立して未来の社会を創るとともに、互いに支え合える人を育成する素晴らしい仕事に携わって来たんだと改めて実感しています。自分自身はそれほどお役に立てたわけではありませんし、まだまだ未熟ですので、子どもたちに負けないように、自己研鑽を積んでいかなければならないと思います。これまで、お世話になった全ての皆様、本当にありがとうございました。

昭和60年度採用。全国的には、家庭内暴力・校内暴力のピークは過ぎたものの、まだまだ生徒指導上の問題が多発する中、中学校社会科教員としてスタート。

日々の授業や教科指導、学級経営・学年経営、部活動指導、行事を中心とした特別活動、進路指導、生徒指導等々を通して、自らつかんだ教育効果をあげる秘訣。それは、「生徒をその気にさせる!」「1つのことを、しつこく徹底させる!」「いい結果を出してやる!その時こそ指導のチャンス!」「水面下でしっかりとルールを敷いてやる」そして、難しいことはわかりませんが、教員として大切なこと。それは、「生徒のそばにいて、生徒と向き合うこと」「生徒の内面を理解すること」「自分の教員としての武器を磨く!」等を、実感することが出来ました。

また、管理職としては、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校を経験させて頂きました。幼稚園・小学校では、幼児教育の重要性、小学校の先生方のご苦労や難しさに気づき、中学校文化と小学校文化の違いに少々戸惑いを感じたことも事実です。特別支援学校においては、「特別支援教育を社会に啓発していくことが我々の使命」「教育の原点は特別支援教育にある」という言葉の一端が、ちょっぴり理解出来たような気がします。他校種を経験させていただき、少し視野が広がったでしょうか……。

今後、高度情報化社会の更なる進展、人口減少化社会、更なるグローバル化、多様な価値観や考え方等々、急激に社会は変化を遂げていきます。当然、学校教育を取り巻く環境も大きく変化していきます。しかし、児童生徒が保護者が、学校に教員に求めている「その根底!」は絶対に変わりません。

たくさんの感動を与えてくれた生徒・児童・幼児の皆さん、長年、支えて頂きました多くの先生方・保護者の皆さん・関係者の皆さんに、心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

定年退職を迎えられる皆様を代表して4名の校長先生の随想を、2カ月にわたって掲載させていただきました。4名の校長先生には、大変ご多用の折にもかかわらず、ご執筆いただきありがとうございました。

退職を迎えられる教職員の皆様、永年に渡り教育活動にご尽力されましたこと、深く感謝申し上げます。今後とも、未来を担う子どもたちを育てるために、皆様のお力をお貸しいただきますようお願いいたします。



コロナ禍ではありましたが、本年度も学校訪問のお世話になりました。訪問に際して、ご配慮いただきました皆様に深く感謝申し上げます。学校経営、生徒指導、特別支援教育推進、若手教員育成等、様々な課題について教育支援チームのメンバーも一緒に考えさせていただきました。学校が元気で、そして教職員の皆様が元気でられることを願っております。

学校訪問で伺った話には、多くの学校に共通する学校課題がたくさんありました。一緒に考え、学ばせていただいたことは、どの学校でも課題解決へのヒントや参考になると思います。

訪問で話題になったことから教職員の皆さんの元気の素になるような話を、今月号から来年度にかけて、Q&Aの形式で少しずつ掲載していきます。学校が元気になるためのお役に立てればと願っております。教職員皆様でござい読みください。

春季休業を控える今月号は、新年度の学級開きについての話題をご紹介します。

新学期 学級開きの持ち方 ～ 先生と一緒に過ごしたい ～

教師にとって4月の学級開きは非常に大事だと思います。新学期の初日はどんなことに気をつけられいいでしょうか。



1人ずつ頭をなでながら、呼名した先生



いろいろな
自己開示



帰宅後、夢中になって先生の話
こうなればいいですね

一番大事なことは、子どもが「この先生と学校生活を送りたい」と思って帰宅できることだと思います。

初日の印象の影響は大きいと思います。入学式や始業式の日には配布物や連絡が多く、学級担任の裁量の時間が少なくなりがちです。しかし、教師が子どもたちと向き合う時間がとても大切です。後日にできる連絡や作業は翌日に回すなど、工夫してください。

たとえ15分間でも、子どもたちが安心感を持ち、教師との良い関係をつくる時間にしたいものです。

子どもたちの関心はどうでしょうか。例えば…

低学年なら、「先生はどんな人？ 優しいかな？」

高学年なら、「何を大切にする先生かな？」

中学生なら、「自分をサポートしてくれるかな？」

具体的にわかりやすく伝えることが、子どもたちの安心や信頼を生みます。教師と子どもたちが一緒に遊ぶ時間を持つのも有効かもしれません。

表情や口調も重要です。話の内容に表情や口調が合わない場合は、55%の人は内容よりも表情で判断するという法則があります。

怒った顔で「好きだ」と言われても「嫌われている」と感じたり、笑顔で「嫌だ」と言われても「嫌がっていない」と感じたりすることがありますね。

メラビアンの法則 【情報が一致しない場合の影響度】

言語情報〔話の内容〕	7%
聴覚情報〔声の大きさや話すスピード〕	38%
視覚情報〔表情〕	55%

子どもたちに笑顔向け、聞きやすい大きさとゆっくりと話することが大事です。

ポイント

わかりやすい内容を、にこやかな表情とおだやかな口調で伝えて、「先生と一緒に過ごしたい」と子どもたちが思える出会いの日にしましょう。